



緑肥・緑化の部屋 13

～環境保全の実践を目指して～

タキイ種苗(株) 営業部 緑化飼料課

Q 先日みかん畑で、果樹の足元を
イネ科の牧草が倒伏状に生い茂っていました。
これは何という植物で、何のために栽培されているのですか？



A それは、「ナギナタガヤ」といわれる
タキイでも草生栽培用作物として販売さ
れ、近年注目を集める植物です。

「草生栽培」というのは、果樹園や野菜の圃場な
どに植物体を共生させ、「草で草を抑える」という
方法です。

具体例をあげると、ミカンやカキ・ウメなどの果
樹園では、「ナギナタガヤ」や「ヘアリーベッチ」
などが広く利用されています。これらの種子を秋ま
きすると、春から夏にかけて旺盛に生育して地面を
覆い、その後は枯れるので敷わらがわりに草マルチ
として地面を覆わせ雑草を抑えるというものです。

「ナギナタガヤ」などを使った草生栽培の長所とし
ては、

- ①除草剤や草刈り作業の削減・低減が図れる
 - ②土壌の侵食を防止し、養分の流亡を防ぐ
 - ③草生植物の根により、土壌の物理性が改善される
 - ④菌根菌などの有用微生物が土壌中で増殖し、化学
肥料の削減・低減が図れる
 - ⑤地温のコントロールが図れる
- といったメリットがあげられます。

減農薬を求めるニーズや、夏場の高温による果樹
の生育障害など、今後も草生栽培の需要は増加の一
途をたどると考えられます。(※1)

(※1) 北海道でも除草剤の代わりに、イタリアンライグラスを利用しようとする新たな取り組みが始まっています。具体的には、昨年、北海道奨励品種に認定され
た「タチサカエ」などの4倍体のイタリアンライグラスを播種し、2年間栽培しながら雑草を抑えるというものです。



あなたも積極的に草生栽培に
チャレンジしてみませんか?
果樹園の下草に!



↑春、倒伏を始める前の状態



↑初夏、倒伏を始めたころの状態

〈播種期〉

●中間地
9月中旬～10月中旬

●暖地
9月中旬～11月上旬

〈播種量〉
2～3kg / 10a

〈注意〉

枯れた草は滑りやすいので、
特に斜面での植生は足を取ら
れないように注意が必要です。